

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.15

会長就任にあたって

会長 大塚 豊

本学会では1973年の入会以来、35年間活動して参りましたが、歴代の優れた会長各位のお姿を思い浮かべるにつけ、また、あまたの先輩諸氏、優秀な同輩や気鋭の若手会員がいらっしやる中で、浅学の徒が会長職を務めることに、他ならぬ私自身が内心忸怩たるものを感じざるを得ません。しかし、学識はさておき、比較教育学という学問への敬意と情熱だけは強く持っています。この気持ちをもって、本学会の更なる発展に微力を尽くす覚悟ですので、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。



さて、教育学を構成する各下位領域ないし専門領域ではそれぞれ外国研究、比較研究が行われてきました。そのため、比較教育学という学問の固有領域あるいはレゾンデートルが問われて久しいと思います。しかしながら、その教育に関する研究が手つかずの国や地域が未だかなりの数にのぼります。また、わが分野以外での成果も含めて、すでに相当の先行研究が蓄積されている国や地域についても、国情、経済や政治、文化などへの周到な目配りをもって、その真髓に迫る研究は甚だ限られているのではないのでしょうか。他方、対象となる問題群についても、開発支援、環境、国際交流、ジェンダーをはじめとして、対象の包括性、広汎性のゆえに、他の限定的な専門領域ではカバーしきれず、わが分野にうってつけの問題群が広がっています。さらに比較研究法そのものの検討も、いつの頃からか停顿したままです。こう考えますと、教育理論の構築と教育の実践的課題解決に貢献するために、比較教育学研究者にこそ期待されているといっても過言でないテーマに溢れているようにも思われます。

そこで、われわれが今なすべき事の一つは、比較教育学というこの学問分野の守備範囲を措定し直し、わが分野のウィングがどこまで広がっているかを再定義するとともに、これまで蓄積してきた知見を社会に改めて還元する仕事のように思われます。勿論これは年次大会での発表や学会紀要などを通じて、継続的に行うべきであることは言を俟ちませんが、すでに望田前会長の時期に提起され、今ようやく芽が出かかっている比較教育学の総合的な事典の編纂を通じて行うことも重要な方途であろうと考え、改めてその推進を提起する次第です。この事業が軌道に乗るとすれば、若手の会員諸氏にはおおいに実際の執筆に参加協力をお願いし、また経験豊富なシニア会員には自らご執筆いただくことはもとより、若手会員を善導する役割をも担っていただけたらと思います。こうした作業を通じて、学会としてのいっそうの凝集力を高めようでしょう。

その他、外へ向けての発信作用の強化を図るための学会ホームページの充実や、諸外国の関係学会、とくに交通至便な近隣諸国とのさらに緊密な研究交流の展開などを進めていくべきでしょう。但し、学問研究の発展は会長や役員がどんなに頑張っても一朝一夕には望めません。やはり会員一人一人の日々の研鑽と精進によってのみ可能でしょう。私および新役員はこれから会務の円滑な運営のために可能な限りの努力を払うこととお約束いたしますが、同時に、会員の皆様におかれましては、本学会をさらに盛り立てるために、ご尽力を惜しまれることのないよう、切に希望するものです。

第44回大会を終えて

大会準備委員会委員長 宮 腰 英 一

第44回大会は6月28日、29日の両日、東北大学川内北キャンパスにて開催されました。東北大学での開催は、第11回大会（1975年 川渡セミナーセンター）、第35回大会（1999年 東北大学教育学部）に引き続き3回目となりました。近年、急増している自由研究発表に対応できる発表会場を確保するために、今大会は国際文化研究科、高等教育開発推進センターなどが所属する「川内北キャンパス」の講義棟を使用いたしました。また前回の大会時に比べ、首都圏からのアクセスは東京から仙台まで東北新幹線で1時間半と格段と良くなりましたし、遠方からの参加者にとっても仙台空港アクセス鉄道の開通により随分と便利になりました。

自由研究発表は158件、ラウンドテーブルは7企画の申し込みがありました。大会参加者数は、通常会員と学生・臨時会員を含めて367名でした。会員外のスタッフや公開シンポジウムのみ参加者を含めると恐らく400名を超える大会となりました。厚生会館での懇親会も200名余りの参加を頂き、大変盛況でした。

自由研究発表は、地域別、テーマ別、英語セッションで部会を構成し、2日間で計34会場において熱のこもった議論が繰り広げられました。このうち第42回大会から始まった英語セッションは6会場で行われ、国内の大学のほかに、釜山大学、韓国教育開発院、香港大学、コロンビア大学の会員から計29件の発表があり、大部定着してきたように思われます。なお部会構成の都合で、同一会員の発表は個人発表・共同発表をあわせて1人1件とさせて頂きました。

課題研究は2会場で行われました。その1つは研究委員会企画の「義務教育の機能的変容と回帰の世界動向」で、フランス、ベトナム、中南米を事例に義務における国家規制の強化、弾力化、児童労働の保護の観点から報告がなされました。もう1つは大会校企画の「新自由主義教育潮流のなかの地域間格差とアイデンティティ」で、台湾、インドネシア、マレーシア、タイにおいて市場主義的教育改革がエスニック・マイノリティや地域に及ぼした影響について議論が交わされました。

公開シンポジウムは「高等教育のラーニングアウトカムの保証－日本の学士課程教育へのインパクト－」を企画しました。OECDが学士課程を対象に高等教育版PISAの検討を始めましたが、複雑な専門分野に共通する学習成果をどのように測るのか、また指標やデータの作成の意味は何かなどについて、大学評価・学位授与機構理事の川口昭彦氏から「高等教育における学習成果の評価－経済協力開発機構（OECD）の挑戦－」と題して基調講演を頂きました。その後、米国におけるラーニングアウトカムをめぐる動向について福留東土会員（広島大学）から、オーストラリア高等教育のアウトカムに基づく質保証の取り組みについて杉本和弘会員（大学評価・学位授与機構）から、またラーニングアウトカムから構成される「学士力」提案の背景と意義について川嶋太津夫氏（神戸大学）から、それぞれご報告いただき、それらをめぐってフロアーを含め活発な質疑が展開されました。

会員の皆様には大会準備及び運営にあたり、不手際で至らない点があり、ご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。また大会の大規模化に伴う、会場の確保、大会プログラムの作成、機器類の準備、運営経費の捻出など、今後の課題も残りました。大会開催の在り方を見直す時期に来ているものと思われます。

最後に、今大会の開催準備にあたって、九大の学会事務局を初めとして、理事の方々、司会を担当して頂いた会員の方々から多大なご支援・ご協力を頂きました。併せて多くの会員の皆様から激励の言葉を頂きました。心より感謝申し上げます。

■第44回大会報告

＜第44回大会の各会場風景＞



公開シンポジウムの様子



ラウンドテーブルでの熱心な討議



自由研究発表の会場



ラウンドテーブルでのカザフスタン教育科学院
クサイーノフ院長

■平塚賞

第18回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会委員長 宮 腰 英 一

2008年1月15日締切で募集した結果、他薦1点の応募がありました。2月17日(日)に九州大学教育学部において平塚賞運営委員会を開催し、応募作品について審査を行いました。応募の単著について査読評価表に基づき各委員が作品をそれぞれコメントした後、評価総合点を参考に審議を行いました。審査の結果、日下部達哉会員(当時・日本学術振興会特別研究員)の『バングラディッシュ農村の初等教育制度受容』(東信堂, 2007年12月25日)に平塚賞を授与することに決定しました。

授賞理由は、本著においてバングラディッシュにおける初等教育制度の発展を農村部住民の「受容」の観点から、住民の初等教育制度への意識やニーズの実態を解明したこと、さらにバングラディッシュの初等教育制度受容の多様性を4農村の現地調査から得られた質的・量的データの国内比較分析によって明らかにしたこと、で途上国研究に多大な貢献をなしたことによります。

なお『比較教育学研究 第37号』に渋谷英章会員の書評が掲載されていますのでご覧下さい。

第18回平塚賞を受賞して

日下部 達 哉 (九州大学)

この度は、大変素晴らしい賞を頂きまして誠にありがとうございました。私は博士課程1年のときから8年間、日本比較教育学会にお世話になってきました。その際会員の皆様から暖かいご指導ご鞭撻を賜りましたことが、また、懇親会や会場外でも様々な応援を頂いたことが、本書の出版に強く結びついております。この場を借りて御礼申し上げます。

ところでバングラデシュという国は、未だ貧困と災害の国と思われていますが、BRICsやビスタの次代を担うネクストイレブンにも名を連ねる将来性のある国です。インドがBRICsであるゆえんは、IT産業の興隆にあると一般的には考えられていますが、南アジア地域研究における研究成果では、80年代からの農村の経済発展による購買力の向上こそ真の要因だと考えられています。経済発展と同時に、農村の人々は学校教育の価値を認識、受容してきたことが指摘されており、仮にネクストイレブンとしてのバングラデシュがその後追いをしているのであれば、今まさに、80年代インド農村と同じ動きがおこっていると考えられます。

そうした文脈からは、21世紀初頭のバングラデシュ農村の教育はいかに描かれるべきなのかという大きな課題が浮き彫りになってきます。

拙著は、この課題のために国内比較分析をとりました。詳しくは本に書いておりましたが、性質の異なる国内の諸地域を比較分析する手法です。比較教育学に出会わなければ、こうした手法をとることもなかったと思います。

今後、バングラデシュの研究と同時にディシプリンへの貢献にも精進して参りたいと思います。これからも、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくおねがいたします。



各種委員会・新委員長の抱負

●平塚賞委員会

委員長 望田 研吾

平塚賞運営委員会の委員構成が変わりました。今年度も下記の要領で第19回平塚賞候補作品を募集します。応募は自薦・他薦を問いません。ふるってご応募下さい。

なお、平塚賞に関する詳細については、学会ホームページまたは紀要巻末掲載の「日本比較教育学会平塚賞規定」をご参照下さい。

1. 対象作品：2008年1月～12月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）
2. 応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」に必要事項を記入し、当該著書・論文1部とともに提出すること。
3. 締め切り：2009年1月15日（必着）
4. 送付先：〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学大学院人間環境学研究院内
日本比較教育学会・平塚賞運営委員会
委員長 望田 研吾 宛
5. 問い合わせ先：TEL & FAX 092-642-3114
Email kengoedu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

■新委員長の抱負

●紀要編集委員会

委員長 宮腰 英一

紀要編集委員会では現在、第38号の編集作業を鋭意進めています。第39号の自由投稿論文の投稿締切日は、平成21年1月10日（厳守／消印有効）です。どうぞ会員の皆様には、ふるって投稿下さいますようお願い申し上げます。投稿に際し、「日本比較教育学会紀要投稿要領」（以下、「投稿要領」）を熟読の上、規定を遵守して行って下さい。特に以下の点にご注意下さい。

- * 自由投稿論文の執筆者は全員が本学会の会員であることが必要です。
- * 「投稿要領」3原稿規格の規定を厳守すること。
- * 注、引用文献、参考文献のすべてを本文と同一のフォントサイズ及び行数で印字すること。
- * 図・表中の文字はA4判の原稿の70%（A5判）に縮小しても十分に読める大きさにすること。

【原稿提出先】

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
東北大学大学院教育学研究科内
日本比較教育学会紀要編集委員会
委員長 宮腰 英一 宛

●RICE担当理事

長島 啓記

窪田会員に代わり、「比較・国際教育情報データベース（RICE）」を担当することになりました。RICEは、1993（平成5）年度より「日本における比較教育学及び国際機関・世界各国の教育に関する文献・資料の概要を含むデータベース」として、「国際化に対応した教育情報への需要に応えようとする趣旨から」構築されてきました。当初を除き、窪田会員・藤田会員を中心に運営されてきましたが、両会員からは、様々なデータベースが整備されてきている現在、RICEの在り方やデータの収集方法等について再検討が必要ではないかとの提案がなされています。この提案にどのように応えていくべきか、会員の皆様のご意見も伺いながら検討を進めていきたいと考えています。

●研究委員会

委員長 近藤 孝弘

東北大学大会で発足いたしました新研究委員会は、杉本均前委員長とも相談のうえ、7月末のメール会議によりまして、これから3年間、以下のような方針で活動することといたしました。

すなわち、2008年4月より杉本前委員長を中心とする科学研究費による学会共同研究「トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究」が進められていますが、新研究委員会はそちらと緊密に協力しつつ、並行する新企画を検討してまいります。また従来、大会での課題研究のうち一つを研究委員会が提案してきましたが、この点につきましては進行中の共同研究の進み具合を踏まえて、発表の場を設定していくこととなります。

なお、新企画のテーマといたしましては、世界各地で様々な社会的格差が拡大するなかで、それがどのような教育課題として表れているのかについて、マクロ・ミクロ両方の視点から比較分析することの可能性と意義につきまして、現在検討を開始しております。このテーマに関連して、より具体的な視点・アイデア・御意見等をお持ちの会員におかれましては、ぜひ近藤までお知らせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

●国際交流委員会

委員長 渋谷 英章

一見・前委員長の下で、国際交流委員会は、フィールドワークの手法による研究の学会大会でのプレゼンテーションや、学会ホームページを通じての国際学会等のアナウンスメントなど、新しい取り組みを行ってきました。今期の国際交流委員会でもこのような取り組みを継承するとともに、会員の方々による比較教育学研究の国際的な交流の推進と図るための方策をすすめていきたいと考えております。なお具体的な検討はこれからというところですので、会員の方々からのいろいろなアイデアや情報を、各委員までお寄せいただければありがたく存じます。

日本比較教育学会役員一覧（2008-2010年度）

（五十音順、敬称略）

●会長 大塚 豊（広島大学）

●事務局長 福留 東土（広島大学）

●理事（○印は常任理事）

〔北海道・東北地区〕

小川 佳万（東北大学）

○宮腰 英一（東北大学）

〔関東地区〕

○一見真理子（国立教育政策研究所）

今井 重孝（青山学院大学）

江原 裕美（帝京大学）

馬越 徹（桜美林大学）

沖 清豪（早稲田大学）

國枝 マリ（津田塾大学）

○窪田 眞二（筑波大学）

黒田 一雄（早稲田大学）

斉藤 泰雄（国立教育政策研究所）

○渋谷 英章（東京学芸大学）

○長島 啓記（早稲田大学）

嶺井 明子（筑波大学）

〔東海・北陸地区〕

○近藤 孝弘（名古屋大学）

○西野 節男（名古屋大学）

服部 美奈（名古屋大学）

〔近畿地区〕

江原 武一（立命館大学）

小川 啓一（神戸大学）

○杉本 均（京都大学）

田中圭治郎（佛教大学）

○山内 乾史（神戸大学）

〔中国・四国地区〕

○大塚 豊（広島大学）

黒田 則博（広島大学）

二宮 皓（広島大学）

〔九州地区〕

稲葉 継雄（九州大学）

久保田優子（九州産業大学）

白土 悟（九州大学）

○竹熊 尚夫（九州大学）

平田 利文（大分大学）

○望田 研吾（九州大学）

●監査

坂本 孝徳（広島工業大学）

杉村 美紀（上智大学）

●幹事（○印は常任幹事）

〔北海道・東北地区〕

本図 愛美（宮城教育大学）

〔関東地区〕

嶋川 明子（早稲田大学）

森下 稔（東京海洋大学）

〔東海・北陸地区〕

北村 友人（名古屋大学）

カンピラパーブ・スネート（名古屋大学）

〔近畿地区〕

石川 裕之（京都大学）

乾 美紀（大阪大学）

〔中国・四国地区〕

○中矢 礼美（広島大学）

○福留 東土（広島大学）

○安原 義仁（広島大学）

〔九州地区〕

日下部達哉（九州大学）

●紀要編集委員会

宮腰 英一（委員長）

杉本 均（副委員長）

今井 重孝、一見真理子、黒田 一雄

澤野由紀子、恒吉 僚子、藤井 穂高

西野 節男、野津 隆志、川口 仁志

稲葉 継雄

清水 禎文（幹事）

●研究委員会

近藤 孝弘（委員長）

高 益民、杉村 美紀、杉本 和弘

園山 大祐、丸山 英樹

●平塚賞委員会

望田 研吾（委員長）

稲葉 継雄、江原 武一、馬越 徹

大塚 豊、窪田 眞二、近藤 孝弘

杉本 均、竹熊 尚夫、宮腰 英一

●国際交流委員会

渋谷 英章（委員長）

伊井 義人、池田 賢市、金 龍哲

西井 真美、日暮トモ子、藤田 晃之

山田 肖子

●RICE担当理事

長島 啓記

■お知らせ

●新入会員

(2008年2月～9月、入会申込み順)

アンソニー フェントン (創価大学)
 栢田 知斗 (早稲田大学大学院生)
 Ng Shun Wing (Hong Kong Institute of Education)
 朴 貞蘭 (名古屋大学大学院生)
 末松 和子 (東北大学大学院経済学研究科)
 山ノ口 寿幸 (筑波大学大学院生)
 柳 松 (東北大学大学院生)
 福島 恭子 (社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
 総合母子保健センター愛育病院)
 山田 愛 (関東学院高等学校)
 荒井 裕之 (東洋英和女学院大学大学院生)
 鬼木 和子 (産業能率大学情報マネジメント学部)
 杉田 かおり (筑波大学大学院生)
 櫻井 里穂 (京都大学教育学研究科)
 金 美淑 (Korean Educational Development Institute)
 Kim Byeong-Chan (Kyunghee University)
 朴 祥完 (釜山教育大学学校教育学科)
 久田 真由美 (インテル株式会社)
 Shakya Dipu (神戸大学大学院生)
 Rukeya Aizezi (名古屋大学大学院生)
 斯 欽 (名古屋大学大学院生)
 原 清治 (佛教大学教育学部)
 高橋 光治 (株式会社パデコ)
 原 芳久 (株式会社VSOC)
 相馬 敬 (株式会社パデコ)
 斎藤 真 (中部大学現代教育学部)
 星野 真澄 (筑波大学大学院生)
 ノールーズィ ヘディエ (早稲田大学大学院生)
 長澤 誠 (ニューヨーク州立大学アルバニー校
 大学院生/慶応義塾NY学院)
 野田 文香 (立命館大学)
 Yun Jeong Suh (Pusan National University 大学院生)
 Park Ji Yeon (Pusan National University 大学院生)
 Chen Li (Pusan National University 大学院生)
 Song Hyun Ah (Pusan National University 大学院生)
 Wang Jinling (Pusan National University 大学院生)
 An Eun-hye (Pusan National University 大学院生)
 Nam Su-mi (Pusan National University 大学院生)
 Wi, Mi Na (Pusan National University 大学院生)
 Kim, Suk-woo (Pusan National University)
 Chang-nam Hong (Pusan National University)
 李 東勲 (Pusan National University)
 Changun Park (Pusan National University)

石嶺 ちづる (筑波大学大学院生)
 布川 あゆみ (一橋大学大学院生)
 Han Hong Ryeon (Pusan National University 大学院生)
 モンズレ コダ (愛知学院大学大学院生)
 水野 涼子 (聖心女子大学大学院生)
 渡邊 彩 (文部科学省大臣官房国際課国際協力
 政策室)
 天木 勇樹 (カリフォルニア大学ロサンゼルス
 校大学院生)
 上原 秀一 (宇都宮大学)
 山本 尚史 (九州大学研究生)
 橋本ひとみ (神戸大学大学院生)
 瀧口 弘子 (神戸大学大学院生)
 島田 健太郎 (神戸大学大学院生)
 宇都宮 マツヨ (神戸大学大学院生)
 ニャムフ ツェルンナドミッド (神戸大学研究
 生)
 大坪 聡美 (神戸大学大学院生)
 飯村 洗介 (神戸大学大学院生)
 ゴイハン (お茶の水女子大学大学院生)
 中村 優子 (神戸大学大学院生)
 趙 昊一 (神戸大学研究生)
 菅 恵里奈 (神戸大学大学院生)
 中室 牧子 (Columbia University 大学院生)
 山口 沙樹子 (システム科学コンサルタンツ株
 式会社)
 盛田 詩子 (システム科学コンサルタンツ株式
 会社)
 Sabin Shakya (神戸大学研究生)
 西原 真弓 (教育コンサルタント)
 辻田 雅美 (名古屋大学大学院生)
 松尾 祥子 (九州大学大学院生)
 藤本 美喜 (神戸大学大学院生)
 恒松 直美 (広島大学留学生センター)
 佐藤 広大 (東京工業大学大学院生)
 木之下 健一 (一橋大学大学院生)
 Duangchay Inkeo (神戸大学大学院生)
 小西 尚美 (関西学院大学)
 李 紅実 (東京学芸大学大学院生)
 藤田 茂 (日本大学大学院生)

(2008年9月4日現在の会員数 966名)

■お知らせ

●次回大会のご案内

次回第45回大会は、東京学芸大学において、下記の日程で開催させていただくことになりました。東京学芸大学で本学会の大会が開催されるのは、今回が初めてになります。学芸大所属の会員数はそれほど多くはありませんので、お近くの会員の方々のご協力をいただきながら、準備を進めていきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

日程：2009年6月27日（土）・28日（日）
会場：東京学芸大学・小金井キャンパス
（最寄駅：JR中央線武蔵小金井駅
あるいは国分寺駅）

第45回大会準備委員会

委員長 洪谷英章
事務局長 浅沼 茂
事務局次長 藤井穂高

●会費納入のお願い

本ニューズレター送付の際、各会員の年会費納入状況を同封しております。ご確認の上、年会費未納の方は納入にご協力をお願い致します。

通常会員10,000円、学生会員6,000円です。紀要は年2回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕 00820-6-16161

日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕 広島銀行西条南支店

普通 3126345

日本比較教育学会 一般会計

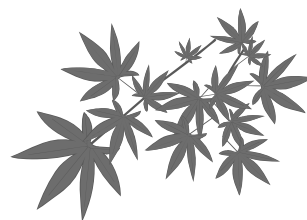
※銀行振り込みにより納入される方は、入金の際に事務局までご一報下さいますよう、お願い申し上げます。

●学会ホームページについて

学会ホームページを更新し、従来の日本語・英語に加えて、新たに中国語バージョンを新設しました。<http://www.soc.nii.ac.jp/jces/>をご覧ください。

●事務局移転について

7月より本学会事務局は九州大学から広島大学へ移転しました。今後の連絡先は下記の通りとなりますので、お間違いのないようお願い致します。



日本比較教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

Tel & Fax (082) 424-6231

E-mail icesjimu@hiroshima-u.ac.jp

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jces/>